

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第181集

栗毛坂遺跡群  
西曾根遺跡V

NISHISONE  
長野県佐久市岩村田  
西曾根遺跡発掘調査報告書

2010. 3

K D D I 株式会社  
長野県佐久市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は、平成21年に調査した長野県佐久市岩村田に所在する西曾根遺跡Vの調査報告書である。  
 遺 跡 名 栗毛坂遺跡群 西曾根遺跡V  
 所 在 地 長野県佐久市岩村田字西曾根52  
 調 査 面 積 28.09㎡  
 開発主体者 KDDI株式会社名古屋エンジニアリングセンター  
 開発事業名 携帯電話鉄塔建設  
 調 査 期 間 平成21年6月1日～平成22年3月12日
- 2 本調査は、KDDI株式会社の委託を受けた佐久市教育委員会が実施した。
- 3 調査は、羽毛田卓也を担当者とし、NECネットエスアイ株式会社の皆様をはじめ多数の方の協力を得て実施した。
- 4 本遺跡に関わるすべての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
- 5 本書の執筆・編集は、羽毛田卓也が担当した。

## 凡 例

- 1 遺跡の略称 IKNSV
- 2 遺構の略称 掘立柱建物址→F  
柱穴址→P
- 3 遺構・遺物の縮尺は各図中にスケールを付したので参照されたい。
- 4 本文・表・図版等の番号(例12-3)は挿図番号(例第12図3番)と対応する。
- 5 ビット付近の(-)数値は、確認面から底面までの深度を表す。
- 6 遺構断面図中の「—」上の数値は標高を表す。
- 7 土層説明中の土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財日本色彩研究所色票監修1987年度版『新版標準土色帖』の表示に基づいた。
- 8 写真図版中の遺物の縮尺はその都度明記し、明記のないものは任意の縮尺である。
- 9 土層説明中の粒子表記は「堆積物粒径分類」に基づいた。

名称	礫・パミス				砂			泥	
	巨礫	大礫	中礫	細礫	粗砂	中砂	細砂	シルト	粘土
直径(mm)	256以上	256～64	64～4	4～2	2～0.5	0.5～0.25	0.25～ 62/1000	62/1000 ～4/1000	4/1000 以下

# 目 次

## 例言・凡例 目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
1 調査に至る動機	1
2 調査の概要	3
3 調査の体制	3
4 調査日誌	3
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	4
1 遺跡の自然的環境	4
2 遺跡の歴史的環境	4
第Ⅲ章 調査の記録	6
1 第1号掘立柱建物址	6
2 ビット群	7
第Ⅳ章 調査のまとめ	7
写真図版	8

# 第I章 発掘調査の経緯

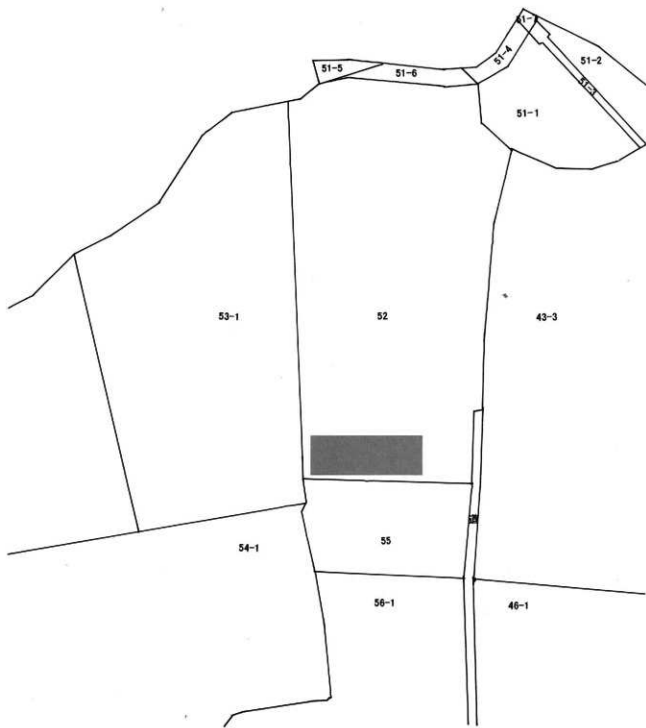
## 1 調査に至る動機と遺跡の環境

栗毛坂遺跡群は、佐久市岩村田・小田井に所在する。本遺跡群は佐久平北方に聳える浅間山に源を発する湯川と、帯状低地に挟まれた台地上（標高750m～725m）に展開する古墳時代から中世の複合遺跡群である。西曾根遺跡は本遺跡群の北西部に展開し、過去4回の調査によって、平安時代から中世にかけての遺構が検出されている。今回の調査地点は、遺跡群北西端の標高746mの台地縁に位置する。

今回、KDDI株式会社（名古屋エンジニアリングセンター）が行う携帯電話鉄塔建設工事に伴い、同社より工事委託を受けたNECネットエスアイ株式会社（中部支店）と佐久市教育委員会とで協議の結果、試掘調査を行い、遺構の有無を調査した。試掘調査の結果、中世と考えられる遺構が検出されたため、再度協議を行った。協議により、鉄塔本体以外の箇所は地下保存とし、鉄塔基礎により破壊される部分を、KDDI株式会社より委託を受けた佐久市教育委員会が主体となって発掘調査を行う運びとなった。



第1図 西曾根遺跡V位置図 (1:50,000)



1:500

第2图 调查区周边地籍图(网点调查区、1:500)

## 2 調査の概要

遺跡名	栗毛坂遺跡群 西曾根遺跡V	
所在地	佐久市岩村田西曾根52	
調査面積	28.09㎡	
調査期間	平成21年6月1日から平成22年3月12日	
調査遺構	平安時代後期の柱穴址	9基
	中世の柱穴址	20基

## 3 調査の体制

事務局	佐久市教育委員会 社会教育部 文化財課
教育長	土屋盛夫
社会教育部長	工藤秀康
文化財課長	森角吉晴
文化財調査係長	三石宗一
文化財調査係	林 幸彦、並木節子、須藤隆司、小林眞寿、羽毛田卓也、富沢一明 神津 格（～9月）、上原 学、井出泰章（10月～）、出澤 力

## 4 調査日誌

- 平成21年4月15日  
現地調査
- 平成21年4月17日  
試掘調査
- 平成21年4月24日  
保護協議
- 平成21年6月1日  
現地協議
- 平成21年6月2日～8日  
測量基準杭の設置  
遺構検出作業、遺構の掘り下げ、遺構の実測・写真撮影  
調査区の実測・写真撮影
- 平成21年6月9日～平成22年3月12日  
遺物の洗浄・注記・復元・実測・写真撮影  
遺構実測図面の修正・遺構第2原因作成、報告書編集作業

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡の自然的環境

佐久平は、北方に前掛山(2524m)・黒斑山(2404m)・高峰山(2106m)・湯ノ丸山(2101m)・火山活動中の浅間山(2568m)を主とする三国山脈の南端峰群、東から南方に関東山地から連なる山々である平尾山(1155m)・森泉山(1136m)・八風山(1315m)・寄石山(1334m)・物見山(1375m)・風の峰(1292m)・熊倉峰(1234m)・荒船山(1422m)・兜岩山(1368m)・霊仙峰(1268m)などからなる関東山地北西部の佐久山地北方峰群、西から南方に蓼科山(2530m)・双子山(2223m)・横岳(2480m)・茶臼山(2384m)を主とする北八ヶ岳連峰と、ほぼ四方を山々に囲まれた盆地で、長野県の中央東端に位置し、群馬県と接している。佐久平全城の平坦部の標高は約600mから1000mを測り、佐久市はこの佐久平のほぼ中央に位置し、平坦部の標高は620mから770mを測る。佐久市は北側で北佐久郡軽井沢町・御代田町、小諸市、東御市と、西側で北佐久郡立科町と、南側で茅野市、南佐久郡佐久穂町と、東側で群馬県甘楽郡下仁田町・南牧村と接している。平成14年度の年平均気温は10.9℃、年間降水量は994mm、年間日照時間は2069.9時間、最高最低気温差は46.4℃で、典型的な中央高地型気候となっている。

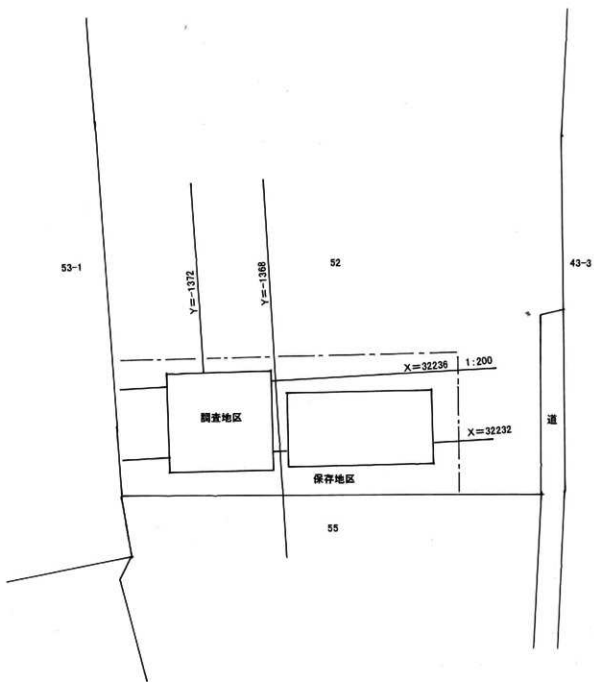
佐久市は中央部を佐久地方南端の甲武信ヶ岳に源を発する千曲川が北進し、浅間山麓に源を発する湯川・濁り川、佐久山地に源を発する霞川・香坂川・志賀川・清津川・田子川・瀬早川・八重久保川・雨川・谷川、北八ヶ岳山麓に源を発する石突川・片貝川・大沢川・中沢川・小宮山川・倉沢川・宮川・滝川・大曲川・布施川・須釜川・八丁地川・鹿曲川・細小路川などの小河川がそれに向かって集まり、大小の扇状地や河岸段丘・侵食谷を形成している。

今回調査した西曾根遺跡は、浅間山の1万2千年前の噴火の際に形成された帯状低地に挟まれた台地状に展開する。帯状低地は、湯川に集まる濁り川等の小河川の侵食によって形成されたと考えられる。基盤層は浅間山軽石流とその二次堆積層である。

### 2 遺跡の自然的環境

今回調査した西曾根遺跡Vを内包する栗毛坂遺跡群は佐久市中央北側の帯状台地上に展開する。この帯状台地は佐久市の北側を何本も南下しており、その台地上には例外なく複合遺跡が展開している。

隣接して北側には、古墳時代後期～平安時代にかけての大集落が発見された著名な聖原遺跡と古墳時代中・後期を中心とする集落が発見された下聖端遺跡を内包する長土呂遺跡群(弥生時代から中世の複合遺跡)、北側から西側に島原古墳・からむし古墳を内包する跡坂遺跡群(古墳時代後期から中世の複合遺跡)、湯川を隔てて西側には潰石古墳を内包する潰石遺跡と腰巻遺跡、南側には弥生時代中期から後期にかけての大集落が発見された西一本柳遺跡・一本柳遺跡、古墳時代から平安時代の大集落が発見された西八日町遺跡・上の城遺跡・一本柳遺跡・円正坊遺跡、中世の大集落が発見された観音堂遺跡・柳堂遺跡・内西裏遺跡などを内包する岩村田遺跡群(弥生時代から中世の複合遺跡)、西側には弥生時代の大集落が発見された上直路遺跡・直路遺跡を内包する枇杷坂遺跡群(弥生時代から平安時代の複合遺跡)、同じく西側には古墳時代から平安時代の複合遺跡である中久保田遺跡と西赤座遺跡が所在する。また岩村田遺跡群内には中世に佐久平北部を支配していた大井氏が居城した長野県史跡「大井城」が存在し、城下町も群内に内包している。さらに近世では岩村田藩の諸施設と中山道宿場町、藤ヶ城なども群内に内包している。調査された個々の遺跡の内容については割愛させていただく。以上より本遺跡周辺は、各時代を通して佐久市でもかなり遺跡密度の高い地域と言える。

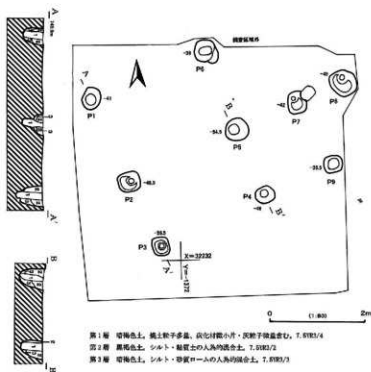


第3図 西曾根遺跡V調査区設定図 (1:200)

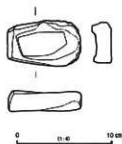


### 第三章 調査の記録

#### 1 第1号掘立柱建物址 (P1~P9)



第4図 第1号掘立柱建物址実測図



第5図 第1号掘立柱建物址  
出土遺物実測図

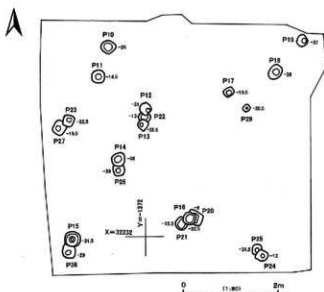
第1号掘立柱建物址は、調査区全体におよぶ範囲で検出され、さらに調査区域外に展開するものと推定される。表土から確認面までの深度は62cmから68cmを測る。柱穴は9基を確認した。

覆土はP1からP4までのものを図示した。いずれのピットも柱痕が存在した。第1層は焼土粒子を多量に含み、炭化材微小片・灰粒子を微量含む暗褐色土で、第2層はシルトと粘質土を混合した黒褐色土、第3層はシルトと砂質ロームを混合した暗褐色土であった。第1層の柱痕層は、柱が焼けた際に成立した層と考えられ、空洞に近いピットもあった。本址は、火を受けて焼失か焼却された建物址と推定される。

遺物は、P1覆土上部より第5図の石製硯が、P1第1層下部より10世紀後半代と推定される灰軸陶器皿の破片が出土した。他にもピット覆土中より土師器甕・坏の小片が出土している。第5図の硯は、流紋岩製の「風字硯」と呼ばれる硯である。丸みを帯びた短辺側に「海」が設けられている。一部に墨の付着が認められる。また全体が火を受けて変色しており、火災の際に柱穴部に落下してきたのかもしれない。

本建物址は総柱の建物址で、所産期は、平安時代後期と考えられる。

## 2 ピット群 (P10~P29)



第6図 ピット群実測図

ピット群は、調査区全体におよんで20基が検出された。第1号掘立柱建物址のP7を破壊する。

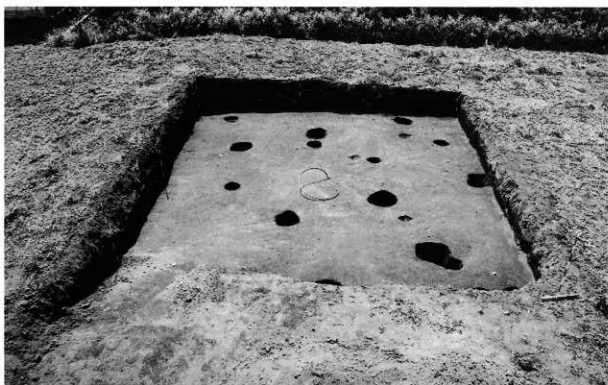
ピット内の覆土はシルトを主体とする黒~暗褐色土 (7.5YR3/2~4/3) である。いずれのピットも底部が硬化していた。P10・P11・P14・P17・P18・P19は覆土中に炭化材微小片を微量含んでいた。またP20・P21・P22・P25は覆土中に焼土粒子を微量含んでいた。

重複するP23・P27、P12・P22・P13、P14・P26、P15・P28、P20・P16・P21は柱の建て替えが推定される。遺物は平安時代の遺物が覆土中に混入していた。

本ピット址の所産期は、付近の遺跡の状況、形態等から中世と推定される。

## 第四章 調査のまとめ

今回のKDDI株式会社名古屋エンジニアリングセンターが行う携帯電話無線基地局設置工事に伴い、保護協議の結果、鉄塔基礎部分のみを発掘調査し、そのほかの部分は地下保存を行った。発掘調査の結果、中世と考えられるピット20基 (建物址2棟分と推定される)、平安時代後期と考えられるピット9基 (建物址1棟分) を検出した。ピットは状況から中世と平安時代後期の一部と考えられ、周囲に広がっているものと推察される。平安時代後期の建物址は、総柱式の建物址と考えられ、高度な集落の一端がうかがえる。出土した平安時代後期の流紋岩製瓦字碇は、佐久市内初見の貴重なもので、注目される遺物である。



栗毛板遺跡群西曾根遺跡Ⅴ 調査区全体写真（東より）



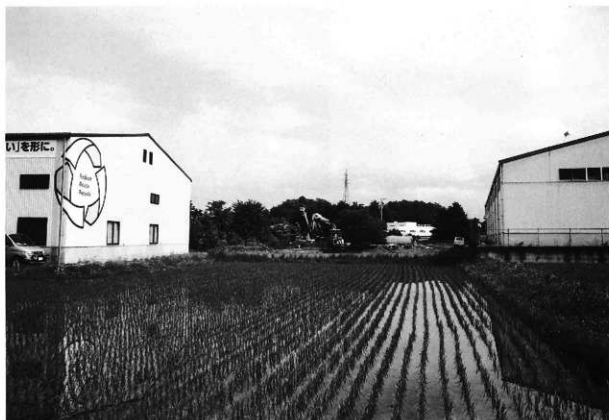
栗毛板遺跡群西曾根遺跡Ⅴ 調査区全体写真（北西より）



西曾根遺跡Ⅴ 調査区近景（北方より）



表土掘削状況（西側より、廃土を成形填押し土砂の流失・飛散を防ぐ）



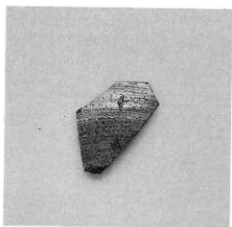
西曾根遺跡Ⅴ 調査区遠景（表土掘削中、中央が調査地点、南側より）



西曾根遺跡Ⅴ 調査区遠景（表土掘削中、中央が調査地点、北側より）



F1P1出土流紋岩製風字硯



F1P1出土灰釉陶器破片



西曾根遺跡V 調査区全景（南西より）



南東より



北東より

## 報告書抄録

書名	西曾根遺跡V
ふりがな	にしそねいせきご
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第181集
編著者名	羽毛田卓也
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2010. 3. 12
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5953
遺跡名	西曾根遺跡V
遺跡所在地	長野県佐久市岩村田52
遺跡番号	佐久市-10
経度	東経 138° 29' 26"
緯度	北緯 36° 17' 04"
調査期間	2009. 6. 1~2010. 3. 12
調査面積	28.09㎡
調査原因	携帯電話鉄塔建設
種別	集落址
主な時代	平安時代・中世
遺跡概要	遺構 柱穴址29基 遺物 平安時代の土器・石器
特記事項	

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第181集

栗毛坂遺跡群 西曾根遺跡V

2007年3月

編集・発行 佐久市教育委員会  
〒385-8501 長野県佐久市中込3056  
文化財課  
〒385-0006 長野県佐久市志賀5953  
電話 0267-68-7321

印刷所 有限会社 ヴィアン

